

# 越中福岡の菅笠製作技術保存会通信

2011年

No. 8

## 会員交流会

三月十七日（木）とやま・ふくおか家族旅行村（ロツジ山ぼうし）にて、保存会員交流を行いました。

「江戸時代の菅作りと笠縫い」という演題で、日和副会長の講演が始まりました。

福岡町の菅笠作りに関しては、統計的にも、たくさんの書物に残っています。改めて、伝統の重みを感じました。また、民舞をしている会員のご協力で、二輪の花を添えたひと時も



ありました。初めての企画で、様々な分野で活動をしてもらえる会員の皆様との交流会は、いかがだったでしょうか。 「楽しかった」「美味しかった」と、嬉しい感想も、頂きました。ご意見があれば、保存会までお寄せ下さい。

## 笠骨製作教室

二月二十七日（日）Uホール第一研修室にて、第一回笠骨製作教室が、行われました。

現在、同地域には、笠骨職人が、一人しかいません。教室は笠骨製作の継承者育成にと企画しました。

まず、参加者は、基礎となる丸輪作りに挑戦です。円形にはならず、楕円形になる方も……。次は、輪竹に中竹を刺し込む目ざしの作業。微妙な力加減が、わからず四苦八苦されていました。

「手作りの技術が身にしみた」と、教室体験者は、笑顔で話されていました。



## 豆笠作り体験

二月二十日（日）雅楽の館にて、雑豆管笠づくり体験を行いました。高岡市商工会福岡支部女性部の主催で行われ、豆笠作りに挑戦しました。

計十六名の参加者が、長い笠針を使い、慣れない手付きで、豆笠を縫いました。その後、隣で開催されていた水引き体験教室で作られた花、鶴、亀など、多彩な飾りを加え、豆笠はより一層かわいらしさを増していました。



## 森の名手・名人

国土緑化推進機構の「森の名手・名人」に当会の木村昭二会長が選ばれました。これは、森林に係る仕事（管笠の笠骨職人）で、優れた技を持つ達人に送られるもので、県内の選定者は、十二人目。

## お詫びと訂正

保存会通信第七号冬の中で、講師の名前が間違っております。訂正してお詫び申し上げます。

誤 赤尾 すめ子さん  
正 赤尾 節子 さん

## 東日本大震災

このたびの東日本大震災に際して、被災された皆様に謹んで、お見舞い申し上げます。

少しでも早い復旧を心よりお祈りいたしております。

## スゲ講演会

二月十五日（火）、福岡観光物産館にて、岡山理科大学教授の星野卓二氏を講師に迎え、「日本のスゲ栽培と野生スゲの生息状況その活用策」と題し、講演が行われました。

教授は、一九九〇年に、日本スゲの会を設立し、全国にいる三百人の会員と共に活動しています。

まず、カヤツリ草については、世界で五千種以上、水と緑が豊富な日本においては、五百種存在し、生育環境変化の敏感な植物だということでした。

今現在、環境保全として水質浄化の利用に期待もあり、生薬として根を利用する事もあります。

そして、鳥取県鹿野町では、平成二十一年三月に、管笠を守る会が結成され、試験田を設置し、保存伝承活動を行っていると熱く語っておられました。



## 編集後記

越中福岡の管笠が、国の重要無形民俗文化財に指定されてから、もう二年が、経過しようとしています。

保存会の管笠普及活動が、少しずつ周知され始め、どこからともなく、取材や、体験教室といった声がかかります。そこから、発信された情報は、たくさんの方の目に触れ、手に触れ、形を変えて、心に残ることでしよう。

今年度も、越中福岡の管笠製作技術保存会は、皆様のお力をお借りしながら、さまざまな活動をしていきたいと思っております。なにとぞ、よろしくお祈りいたします。

